

謎の大噴火

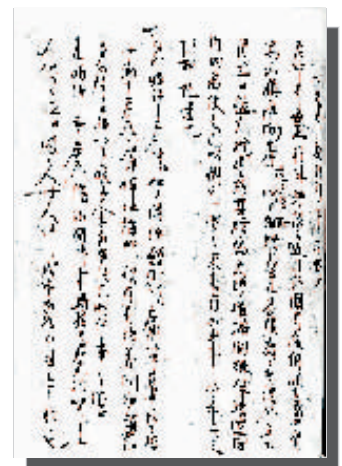


1108年の噴火を日記に記した藤原宗忠（宮内庁写真提供）

1108年、浅間山は大噴火を起こした。この噴火は有史以来最大規模のもので、よく知られた天明三年（1783）の噴火をはるかに超える規模の噴火であった。今年からちょうど900年前にあたるこの年は、平安時代の後期にあたる頃であった。かなり古い出来事のため、この噴火を記録した古文書は、今日たまたひとつ『中右記』にしか残されていない。『中右記』は、中御門で時の右大臣藤原宗忠（1062〜1141）の50余年にわたる日記で、当時の政治・社会情勢や有職故実、人物批評などが記された重要史料であり、次のように書かれている。

「国内に麻間峯という高山があつて、治暦年間より噴煙を上げたが、その後は煙も少しになった。今年（天仁元年）旧暦七月二十一日（新暦の九月五日）より猛烈な噴火が起きて山稜が焼かれ、その噴煙は天にまで達し、砂礫は国に満ち、火山灰は地に積もって田畑は全滅した。一国の災害でこれほどのものは未だかつてなく、稀にみる怪奇現象として記しておく」

その噴火が、一国が滅びるほどの災害であったことがわかる。



『中右記』天仁噴火の記載部分（宮内庁写真提供）

企画展 “浅間山 謎の大噴火”

■8月31日(日)までお見のがしなく！ ■浅間縄文ミュージアム企画展示室

御代田町の人口(5月1日現在)

●人口 14,368人(先月比+57) 男 7,204人 女 7,164人
●世帯数 5,662世帯(先月比+66) ●外国人登録者数 813人

みよた広報 やまゆり ●発行/御代田町 〒389-0292 長野県北佐久郡御代田町大字御代田2464-2 ☎0267-32-3111



みよた広報やまゆりは、環境保全のため、大豆油インキを使用しています。